

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成29年6月22日 (2017.6.22)

【公開番号】特開2017-143(P2017-143A)

【公開日】平成29年1月5日 (2017.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2017-001

【出願番号】特願2016-130526(P2016-130526)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2015.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 19/00

C 0 7 K 14/47

C 0 7 K 16/18

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成29年5月8日 (2017.5.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

( a ) 損傷細胞の細胞外空間に露出されているホスファチジルセリンに結合特異性を有する標的化ドメイン、ここで該標的化ドメインはアネキシン、またはそれらの断片である ; および

( b ) 組織の細胞表面に関する増殖因子受容体に結合特異性を有する活性化ドメインであって、該活性化ドメインが該増殖因子受容体にさらされると、組織の再生または生存を調節するように該活性化ドメインが該増殖因子受容体に結合する ; を含む二重特異的融合タンパク質。

【請求項 2】

活性化ドメインが、線維芽細胞増殖因子、ニューレグリン / ヘレグリン、インスリン様成長因子、肝細胞増殖因子、血管内皮増殖因子、間質細胞由来因子、血小板由来増殖因子、テラトカルシノーマ由来増殖因子、マスト細胞 / 幹細胞増殖因子、高親和性神経成長因子、BDNF / N - 3 増殖因子、NT - 3 増殖因子、骨形態形成タンパク質、それらの変異体、それらのアイソフォーム、それらの断片およびそれらの組合せからなる群から選択される、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 3】

標的化ドメインが、 $10^{-6}$  M から  $10^{-12}$  M の範囲の解離定数 K d で、標的分子と

結合する、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 4】

アネキシンが、ホスファチジルセリン結合親和性を維持している間、アネキシンの内在化を減少させるように改質されたものである、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 5】

融合タンパク質が、細胞動員、アポトーシスの抑制、および / または、細胞増殖の誘導を促進する、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 6】

融合タンパク質が、細胞の損傷を防ぎ、細胞の成長を促進し、幹細胞の運動性を促進し、幹細胞の分化を促進する、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 7】

組織が、心臓組織または腎組織、骨、軟骨、間接、皮膚、肝組織、脾臓組織、血球、肺組織、または神経組織である、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 8】

活性化ドメインが N R G 1 b e t a、I G F 1、S D F - 1、I L - 3 3、それらの変異体、それらのアイソフォーム、それらの断片およびそれらの組み合わせからなる群から選択される、請求項 1 に記載の融合タンパク質。

【請求項 9】

医薬上好適な担体および治療上有効量の請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の融合タンパク質を含む、医薬組成物。

【請求項 10】

さらに幹細胞を含む、請求項 9 に記載の医薬組成物。

【請求項 11】

組織再生を調節するように、対象の組織損傷を治療するための、請求項 9 または 10 に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の融合タンパク質をコードする核酸分子。